

幕府・畿内での動き

地方での動き

・6代将軍[a.]就任 (1429) …くじ引きで選定
⇒代替わりに[b.]の土一揆が発生 (1428)

播磨の土一揆(1429)…播磨守護の赤松氏の国外退去要求

・義満を手本とした将軍権力強化 — 関東への将軍権力拡大
① 日明貿易の再開 (1432)
② 有力守護の抑圧…「万人恐怖」と言われた

・[f.] (1441)
播磨の守護赤松満祐が将軍義教を暗殺
⇒赤松氏は討伐されてたが、将軍権威失墜

討伐に貢献した山名持豊が勢力拡大 → 嘉吉の土一揆 (1441) …幕府は徳政令を發布
7代将軍足利義勝就任 (1442, 翌年死去)

・8代将軍[g.]就任 (1449)
① [i.] (完全) の台頭 管領[j.]と主導権を争う
② 畠山・斯波両管領家の家督争い
③ 将軍義政の後継者問題 (義尚 VS 義視)
(子) (弟)

子の政知を鎌倉公方として派遣するが鎌倉に入れず

・[k.] (1467~77)

西軍	陣営	東軍
足利義視	将軍家	足利義政
山名宗全	幕府実力者	細川勝元
畠山義就	畠山氏	畠山政長
斯波義廉	斯波氏	斯波義敏
大内・一色・土岐・六角	有力大名	赤松・京極・武田

⇒宗全・勝元死後も続き、最終的に東軍優勢で和睦(1477)

《影響》

将軍権威失墜 ↓ 守護在京制の崩壊 守護大名が領国へ	守護大名の弱体化 ↓ 守護代・国人の台頭 下剋上	京都の荒廃 →足輕による略奪
[l.]の登場 ⇒実力による統治：荘園制度の解体へ	保護	公家・文化人の地方への下向 ⇒京都の文化の地方への普及(例：一乗谷・山口)

乱後も畠山氏の争いが続く

・[m.] (1485~93)
国人が畠山氏に退去を要求し、南山城を8年間自治
・明応の政変 (1493) — 新将軍 義澄の命令か
管領細川政元が将軍足利義在を迫放し、義澄を擁立

鎌倉公方[c.]は将軍の座を望むが実現せず、将軍義教と対立

関東管領上杉憲実は幕府との融和に努めたが、持氏に敵視される

・[d.] (1438)
関東管領[e.] VS 鎌倉公方 足利持氏
⇒幕府は憲実を支援し、持氏は自害

・結城合戦(1440)
結城氏が持氏の遺児を擁して反乱を起こすが、幕府により鎮圧

足利成氏 (持氏の子) が鎌倉公方に就任

・[h.] (1455~83)
鎌倉公方足利成氏が関東管領上杉憲忠を殺害
↓
鎌倉公方の分裂 (堀越公方：政知・古河公方：成氏)
⇒関東地方は戦国時代へ突入

和睦が成立するが、両公方が併存 (1483)

・[n.] (1488~1580)
守護富樫政親を滅ぼし、加賀国を支配
・堀越公方の滅亡
北条早雲 (伊勢宗瑞) により滅亡

幕府・畿内での動き

地方での動き

・6代将軍[a. 足利義教]就任 (1429) …くじ引きで選定
⇒代替わりに[b. 正長]の土一揆が発生 (1428)

鎌倉公方[c. 足利持氏]は将軍の座を望むが実現せず、将軍義教と対立

播磨の土一揆(1429)…播磨守護の赤松氏の国外退去要求

関東管領上杉憲実は幕府との融和に努めたが、持氏に敵視される

・義満を手本とした将軍権力強化 ————— 関東への将軍権力拡大
① 日明貿易の再開 (1432)
② 有力守護の抑圧…「万人恐怖」と言われた

・[d. 永享の乱] (1438)
関東管領[e. 上杉憲実] VS 鎌倉公方 足利持氏
⇒幕府は憲実を支援し、持氏は自害

・[f. 嘉吉の変] (1441)
播磨の守護赤松満祐が将軍義教を暗殺
⇒赤松氏は討伐されてたが、将軍権威失墜

・結城合戦(1440)
結城氏が持氏の遺児を擁して反乱を起こすが、幕府により鎮圧

討伐に貢献した山名持豊が勢力拡大 ————— 嘉吉の土一揆 (1441) …幕府は徳政令を發布
7代将軍足利義勝就任 (1442, 翌年死去)

足利成氏 (持氏の子) が鎌倉公方に就任

・8代将軍[g. 足利義政]就任 (1449)
① [i. 山名宗全] (宗全) の台頭 管領[j. 細川勝元]と主導権を争う
② 畠山・斯波両管領家の家督争い
③ 将軍義政の後継者問題 (義尚 VS 義視)
(子) (弟)

子の政知を鎌倉公方として派遣するが鎌倉に入れず

・[h. 享徳の乱] (1455～83)
鎌倉公方足利成氏が関東管領上杉憲忠を殺害
↓
鎌倉公方の分裂 (堀越公方：政知・古河公方：成氏)
⇒関東地方は戦国時代へ突入

・[k. 応仁の乱] (1467～77)

西軍	陣営	東軍
足利義視	将軍家	足利義政
山名宗全	幕府実力者	細川勝元
畠山義就	畠山氏	畠山政長
斯波義廉	斯波氏	斯波義敏
大内・一色・土岐・六角	有力大名	赤松・京極・武田

⇒宗全・勝元死後も続き、最終的に東軍優勢で和睦(1477)

和睦が成立するが、両公方が併存 (1483)

乱後も畠山氏の争いが続く

将軍権威失墜 ↓ 守護在京制の崩壊 守護大名が領国へ	守護大名の弱体化 ↓ 守護代・国人の台頭 下剋上	京都の荒廃 →足輕による略奪
[1. 戦国大名]の登場 ⇒実力による統治：荘園制度の解体へ		公家・文化人の地方への下向 ⇒京都の文化の地方への普及(例：一乗谷・山口)

・[m. 山城の国一揆] (1485～93)
国人が畠山氏に退去を要求し、南山城を8年間自治
・明応の政変 (1493)
管領細川政元が将軍足利義在を追放し、義澄を擁立

新将軍 義澄の命令か

・[n. 加賀の一向一揆] (1488～1580)
守護富樫政親を滅ぼし、加賀国を支配
・堀越公方の滅亡
北条早雲 (伊勢宗瑞) により滅亡